

様式2 令和3年度 清瀬市立清明小学校 学校評価表

学校教育目標	明るく豊かな心をもち 進んで学ぶ児童の育成 ○よく見つめよく考える子 ○親切で思いやりのある子 ○健康でたくましい子	育成を目指す資質・能力及び特色ある教育活動	・自分も他の人も大切にし、お互いに助け合う児童及び主体的に学習に取り組む児童の育成 ・児童の基礎的・基本的な学力を保障するための授業改善の実施 ・地域の物的、人的教材を生かした教育活動を展開 ・持続可能な社会づくりに向けた教育活動の実施 ・NPO法人と連携した補習学習「パワーアップタイム」の実施
目指す学校像（ビジョン）	【目指す学校像】 【目指す児童・生徒像】 【目指す教師像】	<small>「学ぶ楽しさがある学校」人とのかわりを大切に、仲良く助け合う機ややさしあふれる学校 心と体の健康づくりに取り組み、生き生きとした元氣あふれる学校・家庭及び地域に信頼される開かれた学校</small> <small>共に学び 共に育ち 笑顔あふれる清明の子</small> <small>教育公務員としての使命感と責任感をもち、チーム清明小として何事にも挑戦する。</small>	
前年度までの学校経営上の成果と課題	・基礎的・基本的学力の定着に向け、朝学習やパワーアップタイムの指導内容を見直し、年間計画を作成することができた。また、全職員での校内研究の実施により、児童一人一人の探求課題を大切にすることができた。 ・基礎的・基本的な学習内容の確実な定着が喫緊の課題である。教員が課題を自分事として捉え、課題に対し学校全体で組織的に指導を行う体制をつくる。		

柱	具体的方策	自己評価		学校関係者評価	次年度以降の改善方策	
		課題及び次年度以降の改善方策（案）		学校関係者による「自己評価」についての評価	学校関係者評価の結果を踏まえた改善方策	
		評価				
		取組評価	成果評価			
確かな学力の向上	教員一人一人がねらいを明確にし、めあて達成のための学習活動を工夫して、児童に学習活動の振り返りをさせる授業改善を行う。 朝学習やパワーアップタイムでつまぎにに応じた指導を推進する。算数では習熟度別学習スタイルに沿った学習内容で指導に当たるとともに、東京ベーンツドールを活用し立ち戻っての指導を推進する。	4	4	・学習は行事の振り返りを文章で行うことについて、アウトプットする方法が分からないと書くことが難しいことがあるので、テンプレートのようなもので書き方を示すとよい。 ・作文用紙に書けるということは重要である。 パワーアップタイムに参加してみて、前の学年に立ち戻るのは絶対に大切である。個別指導が十分にできる体制づくりが重要である。	授業の導入の場面で、ねらいを明確にし児童に分かりやすく伝える。毎時間、授業を振り返り、具体的に分かったこと等をノートやワークシートに記入させることで、学習内容の確認を深める。また、作文用紙に、行事ごとの振り返りや、月毎に、短作文を書くことにより書く力を伸ばす。 朝学習とパワーアップタイムを計画的に進め学力の向上を図る。学習意欲を維持できるように、【できたよカード】など達成度合いが分かるようにカードを導入する。個別指導の体制を実現するために学校地域支援本部と連携し、可能な限り丸付けの人員を確保する。	
豊かな心の育成	月1回のアンケート、いじめの未然防止対策委員会を開催し、いじめの未然防止、早期発見、早期解決を図る。また、年3回実施のアセスを活用し児童の学級での様子を把握する。また、SOSの出し方教育を5年生以上で実施する。 図書ボランティアの活用など週1回の朝読書や年2回の読書時間を充実させ、読書に対する意欲を高める。また、学校図書館支援員、公立図書館と連携し、学習の充実を図る。	4	4	【生活指導部】 今年度は、アセスとふれあいアンケートが重なることもあるが、アンケートも毎月あることで聞き取りもできるため、いじめ等の早期発見につながっている。次年度も毎月やって聞き取りを行う。 【文化の行事委員会】 朝読書や本の紹介を通して、本に親しんだり、進んで読んだりすることができた。また、図書館支援員を通して公立図書館と連携したり、学習に必要な本を用意することができた。ただ、調べ学習に必要な本を用意してもらうことができたが、内容が今の時代と合っていないことや児童の知らない内容がなかったりすることがあったので、最新のものや児童の調べたいものが出てくる内容の本を用意してもらえと、充実した活動ができると考えられる。	中学校では教科担任制なので多くの目で子供を見ることが出来る。多くの目で児童を見ていくことが大切である。 ・先生方が勤めた本は、児童が手に取る可能性が高くなる。本を紹介するのはとても良い取組である。 ・清瀬100冊は図書室になく、借りられないことが多いので改善してほしい。	月1回及び必要に応じていじめ防止対策委員会を開き、指導方針の共通理解を図るとともに関係機関と連携し、早期対応・早期解決に努める。また年3回アセスを実施し、スクールカウンセラーと連携し児童一人一人の学級での適応感を把握し、不登校やいじめの未然防止に生かす。 清瀬100冊では、学校図書支援員によるブックトークで、本への関心をもたせる。また、週1回の朝読書や年2回の読書時間で、本の紹介や読み聞かせ等を行い、読書へ意欲を高める。図書ボランティアを活用し、図書室の環境をさらに充実させる。また、学校図書館活用計画に従い、学校図書館支援員、公立図書館と連携し、学習の本の貸し出しをし、学習の充実を図る。
健やかな体の育成	栄養職員と連携した毎日の給食指導や食育の授業を通して、正しい食習慣を確立する。 体育の学習においてコーディネーショントレーニングを取り入れ、体力の向上を図る。	4	4	【生活指導部】 栄養士の方に巡回していただくことで、子供たちの食への興味関心が高まったと考えられる。次年度も同様に、栄養士の方に巡回してもらおう。調理室前の掲示物を見てもらえるように、子供たちに声をかける。 【体育の行事委員会】 本年度も3月いっぱいまで取り組み、次年度は4月から取り入れる。新しく来た教員には、今までの教員がやり方を教える（4月の体育の授業が始まる前まで）。教育計画にも動画のリンクなど、コーディネーショントレーニングについて載せ、教員がすぐに確認したり、児童と一緒に活動に使用したりできるようにする。	栄養士の啓発により、残菜が減っているのはよいことである。ぜひ続けてほしい。同じメニューでもネーミング次第でたくさん食べることもある。黙食で残菜が減ったのがよかった。 コーディネーショントレーニングは楽しそうにやっている。成果として向上が見られているのであれば尚、続けてほしい。	食育に関する日々の放送や栄養士による給食指導により、正しい食生活についての啓発を行う。また図書間での食に関する絵本の紹介、HPでの給食の紹介、総合的な学習の時間や特別活動などで栄養士と連携した学習を行い食への興味、関心を高める。また、給食の名前を工夫して残菜を減らす。 授業の開始にコーディネーショントレーニングを計画的に取り入れ、体力の向上を図る。新しく来た教員については、4月の体育の授業が始まる前まで研修を行う。
特別支援教育の充実	作成した個別の教育支援計画と個別指導計画をもとに、担任と特別支援教室の教員が情報を共有して指導に当たった。 特別支援教室の教員を活用し、教員一人一人がユニバーサルデザインの視点を取り入れた教室環境づくり、個に応じた指導を充実させる。	4	4	【生活指導部】 来年度は、退出目標（1年間）を考えると、現在よりめあてや目標を明確にしたり、共通理解をすることが大切である。年度初めには、担任ときらりと話し合いの機会をもつ。また、2学期末の段階でも話し合いの機会を持ち、入退出について話せるようにする。 【体育の行事委員会】 新年度の教育計画に教室の掲示計画を入れて、いつでも教員が確認できるようにする。計画に合わせて、教室環境づくりをする。	1年間で原則退出ということは、難しい面がある。退出できるかどうかの学級での見取りが重要になってくる。 掲示の仕方や板書についてのユニバーサルデザインの視点については中学校でも取り入れている。ぜひ続けてほしい。	めあてや目標を絞って明確にし、学級での見取りに力を入れ退出1年を目指す。月1回の校内委員会で、特別支援教室担当教員から学級担任に学級で取り組める指導方法等について伝え、一致した指導体制を作る。 特別支援教室担当教員と連携し、教室の席配置や掲示物、授業の見通し等について配慮し、学習環境を整え、個に応じた指導を行うことにより、児童が落ち着いて学習に取り組めるようにする。
本校の特色	地域の豊富な教材を活用した指導方法を学び、児童が設定した課題について探究する学習を展開できるよう授業改善を行う。 「下宿囃子」「円通寺ふせぎ」「清明ソーラン」「ピオーブ」等について、地域の方から話を聞いたり、体験したりすることを通し、親しみをもてる今あるものをよりよい未来へつなげる心を育成する。	4	4	【学力向上・研究部】 清明地域人材バンクに、本年度に関わった外部の方との連絡先や簡単な活動の記録を載せる。次年度は、活動の記録を参考に指導方法を考えたり、児童の実態に合わせて改善を加えていく。また、児童の設定した課題に合わせた探究活動ができるように、地域支援本部と連携し、人材や教材を紹介してもらえるようにする。 【文化の行事委員会】 コロナ感染の不安から、直接教えていただくことができないことがあった。地域の伝統文化行事を受け継いでいくために、感染対策をしっかりとって教えていただいたり、オンラインで指導を受けたりできるように工夫していく。また、学習したことを他学年や地域の方々に紹介し、伝統を受け継げるようにする。	柳瀬川の取組はととてもよい。幼稚園でも自然観察教室を行っている。ぜひ続けてほしい。 来年度も可能な限り取り組んでほしい。さらに人材を発掘することが必要である。	豊富な教材を活用し、探究的な学習が展開できるよう、校内研究等に取り組む。また、地域人材バンクに活動記録等を記録して活用する。 清明林・ピオーブ・下宿囃子、また、清瀬市コミュニティハウスと連携しコロナ対策をとりながら、地域の方から話を聞いたり、体験したりする中で、今あるものをよりよい未来へつなげる心を育成する。